

当翻訳は、法務省入国管理局による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることにご留意ください。

イラン 2013 年版：国際的な信教の自由に関する報告書

概要

憲法は、すべての法と規定が、漠然とした「イスラム教の規則」に基づいていなければならないと定めている。但し、すべてではないが、一部の宗教的マイノリティに対し、ある程度の宗教上の自由を認めている。実際には、イラン政府は信教の自由を厳しく規制し、信仰に基づいた監禁、嫌がらせ、脅迫、及び差別の事例が報告されている。イラン政府が、宗教的マイノリティ及び民族的マイノリティに対し、*moharebeh*(モハレベ(神への敵意))や「反イスラムプロパガンダ」などの罪を科したり、彼らの宗教的活動に対し、曖昧な国家安全保障上の犯罪などを科したりしたという報告が、相次いでいる。宗教上の理由で逮捕されたとされる人々は、ほとんどの良心的囚人がそうであるように、劣悪な状況の刑務所で、粗末な扱いを受けている。宗教的マイノリティの信者に対する逮捕や嫌がらせは、2012年に激増し、2013年にも継続して頻繁に行われた。イラン政府が、宗教上の信仰を理由に、監禁、嫌がらせ、脅迫、及び差別を行ったという事例が引き続き報告された。憲法は、ジャアファリー・シーア派イスラム教 (Ja'afari Shia Islam)を正式な国教として定めている。また、「その他のイスラム教の宗派を十分に尊重」し、イスラム教以外の宗教では、宗教的マイノリティとしてゾロアスター教、キリスト教、及びユダヤ教の3つのみを公認している。憲法は、これら3つの宗教的マイノリティの信者が自由に活動する権利を認めているが、イラン政府は改宗を法的に制限し、宗教活動を行ったことを理由にゾロアスター教とキリスト教コミュニティのメンバーを頻繁に逮捕している。イラン政府がユダヤ教を中傷する事例も多く見られる。イラン政府は、バハーイー教徒(Bahais)を背教者と見なし、その信仰を「政治的分派」と定義している。バハーイー教の信者は、布教や教義の実践を禁じられ、その他の宗教団体とは異なる様々な差別を受けている。

イラン政府の言動は、特にバハーイー教徒にとって、また、イスラム教スーフィー派(Sufi Muslims)、福音派キリスト教徒、ユダヤ教徒、及び、イラン政府公式の宗教的見解を共有しないシーア派集団など、シーア派以外のほぼすべての宗派にとって脅威となるような風潮を生みだした。バハーイー教やキリスト教団体は、恣意的な逮捕、長期にわたる勾留、及び財産の没収などを報告している。イラン政府の支配下にある放送局と新聞社は、宗教的マイノリティの信者、特にバハーイー教信者に対する中傷を続けている。すべての宗教的マイノリティが、程度に差はあれ、雇用、教育、及び住宅取得などの面で公式な差別の対象となっている。バハーイー教信者は、依然として大学から退学処分を受けたり、入学を拒否されたりしている。

宗教上の帰属、信仰、又は実践に基づいた社会的な迫害や差別を受けたという報告が複数

あった。シーア派以外の宗教団体は社会的差別を受け、社会は、一部の宗教的マイノリティの信者にとって脅威となるような風潮を生み出した。シーア派以外の宗派に対するイラン政府の行動は、社会が宗教的マイノリティを弾圧することを容認する風潮を作り出している。

1999年以降、米国は国際的な宗教の自由法(International Religious Freedom Act)の下で、イランを「特に懸念される国(CPC: Country of Particular Concern)」と指定してきた。米 국무長官は、2011年にイランを「特に懸念される国」として再指定し、特定の物品のイランからの輸入、及びイランへの輸出に関する既存の規制を再度指示した。米国政府は、イラン政府による宗教的マイノリティの過酷で抑圧的な扱いに対して強い不満の意を明らかにし、高レベルな公式声明や報告書、国連やNGOによる活動への支援、国際社会と調整した外交活動、及び制裁を通じた改善を求めた。米国政府は、NGOや市民社会とも関わり、イランにおける宗教的自由の状態に関する理解を深めることに努めた。米国はイランと外交関係を持っていない。

第I節 宗教の人口統計

米国政府は、イランの人口を7,990万人と推定している(2013年7月の推定)。人口の99%はイスラム教徒であり、そのうち90%がシーア派であり、9%がスンニ派(ほとんどが、それぞれ北東部、南西部、南東部、北西部に居住するトルクメン人、アラブ人、バルーチ人、及びクルド人)である。イスラム教スーフィー派の規模に関しては、入手可能な公式の統計が無い。但し、一部の報告書によると、200万~500万人がスーフィー派であると推定される。

人口の残りの1%を構成するのは、バハーイー教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒、サービア・マンダヤ教徒(Sabeen-Mandean)、及びゾロアスター教徒である。イスラム教以外の宗教的マイノリティ集団の中で最も規模が大きいのは、バハーイー教徒とキリスト教徒である。バハーイー教徒は約30万人で、テヘラン(Tehran)とセムナン(Semnan)に集中している。国連の統計は、イランには30万人のキリスト教徒が居住するとしているが、一部のNGOは、キリスト教徒は37万人に上ると推定している。イラン統計センター(Statistical Center of Iran)は、11万7,700人と推定している。キリスト教徒のほとんどは、主にテヘラン(Tehran)とイスファハン(Isfahan)に居住するアルメニア人である。アッシリア系キリスト教徒の非公式な推定人数は、1万人~2万人と幅がある。福音派を含むプロテスタントの宗派も存在する。イラン国外のキリスト教団体は、イランのプロテスタント派を1万人以下と推定しているが、多くのキリスト教プロテスタント派は秘密裏に活動していると伝えられる。サービア・マンダヤ教徒は、5,000人から1万人である。イラン統計センターは、2011

年、ゾロアスター教徒を 2 万 5,300 人と推定しているが、これは主にペルシア人で構成される。但し、ゾロアスター教団体は、信者を 6 万人と報告している。

第 II 節 信教の自由の尊重に対するイラン政府の立場

法的/政策的枠組み

憲法及びその他の法律並びに政策は、信教の自由を厳しく制限している。憲法は、「国教をイスラム教とし、ジャアファリー・シーア派イスラム教の教義に従う」と宣言している。憲法は、すべての法と規定が、定義のない「イスラム教の規則」と シャーリア((sharia)イスラム法)の公式解釈に基づいていなければならないと定めている。

憲法は、イスラム教スンニ派にある程度の信教の自由を認めている。また、「法律の範囲内で、」ゾロアスター教徒、ユダヤ教徒、及びキリスト教徒だけが、改宗の勧誘をしない限り、自由に礼拝し、宗教団体を形成することを認められている宗教的マイノリティであると明確に定めている。サービア・マンダヤ教徒は自らをキリスト教徒とはみなしていないが、イラン政府は彼らをキリスト教徒とみなしているため、公認されている 3 つの宗教的マイノリティに含まれる。イラン政府は、その他の非イスラム宗教を公認しておらず、バハーイー教徒など、その他の非イスラム宗教団体の信者は、信仰を实践する自由を有していない。

イスラム革命の最高指導者アリー・ハメネイ師は、立法府、行政府、及び司法府の 3 つの部門で構成される統治機構を率いている。専門家議会(Assembly of Experts)として知られる 86 人のイスラム法学者のグループが、最高指導者を選出する。法学者は、8 年ごとに直接選挙で選ばれる。公選ではない監査評議会(Guardian Council)が、Majlis(マジュレス(議会))のすべての行為を、及び専門家議会を含むあらゆる選出公職のすべての候補者を、イスラム法と憲法を厳守しているかどうかに関して審査する。監査評議会は、最高指導者が任命する 6 人の聖職者、及び司法府が指名し Majlis(マジュレス(議会))が承認する 6 人のイスラム法学者で構成される。

憲法は、イスラム教の市民が、信仰を選択する、変更する、又は放棄する権利を認めていない。政府は、イスラム教徒を父に持つ子供をイスラム教徒と自動的にみなし、イスラム教からの改宗を死刑に値する背信行為とみなしている。

非イスラム教徒は、イスラム教徒の間で、公然と宗教的表現を行ったり、説教を行ったり、改宗させたりすることができない。非イスラム教徒がイスラム教徒を改宗させることは死

刑に値する。イラン政府は、宗教的出版物の発行を制限している。政府の役人は、頻繁にキリスト教の聖書を没収し、聖書又は非認可の非イスラム教出版物を印刷する出版社に、業務を停止するよう圧力をかけている。

文化イスラム指導省(Ministry of Culture and Islamic Guidance(Ershad))、及び諜報治安省(Ministry of Intelligence and Security)は、宗教活動を綿密に監視している。イラン政府は、公認されている一部の宗教的マイノリティの信者に対し、実際的な活動を行うため、又は合法的な団体として存在するための前提条件として、届出を義務付けてはいないが、当局は、集団行事、宗教行事、及び文化行事、並びに学校などの組織を厳しく監視している。イラン政府は、福音派キリスト教信心会に対し、会員名簿の作成と提出を義務付けている。また、バハーイー教徒に対し、警察への登録を義務付けている。

イスラム教以外の宗教的マイノリティの信者は、Majlis(マジュレス(議会))の 290 議席のうち、政府によって宗教的マイノリティ集団のために確保されている 5 議席を除き、代議機関に選出されることができず、政府又は軍の高位の職に就くこともできない。宗教的マイノリティ集団のために確保された 5 議席の内訳は、アルメニア系キリスト教徒が 2 議席、アッシリア系キリスト教徒が 1 議席、ユダヤ教徒が 1 議席、ゾロアスター教徒が 1 議席である。スンニ派は、Majlis(マジュレス(議会))に議席を確保されていないが、Majlis(マジュレス(議会))の議員になることは認められている。スンニ派の Majlis(マジュレス(議会))議員は、大きなスンニ派集団から選出される傾向にある。イラン政府は、宗教的マイノリティに投票権を認めているが、イスラム教スンニ派を含め、宗教的マイノリティは、大統領になる資格を持たない。

イスラム教スンニ派を除き、宗教的マイノリティの信者は、司法組織又は治安機関に勤務することができず、公立学校の校長を務めることもできない。当局は、公職への応募者を、イスラム教の遵守度とイスラム教の知識に基づいて選抜する。ただし、宗教的マイノリティに属する者も、バハーイー教徒を除き、下級の公職に就くことが認められている。イスラム教の原理と規則を遵守しない公務員は、処罰の対象となる。バハーイー教徒は、政府と軍のすべての指導的地位から排除されている。

憲法は、イスラム主義の理想に献身しなければならないという意味で、軍がイスラム的でなければならない、イスラム革命の目的に献身する者を入隊させなければならないと定めている。但し、実際には、宗教的マイノリティに属する者も兵役を免除されない。法律は、軍において、非イスラム教徒がイスラム教徒よりも上の階級になることを禁じている。憲法で保護された宗教的マイノリティに属する者で、大学教育を受けた者は、兵役義務の期間中に将校を務めることができるが、職業軍人として将校になることはできない。

1991年改正の「イスラム処罰法(Islamic Punishments Act)」第297条は、イスラム教徒及び非イスラム教徒の両者に対し、死亡した家族の賠償金として、同額の *diyyeh* (ディア(慰謝料)) (殺害賠償金 (ブラッドマネー)) を請求することを認めている。この法律によると、バハーイー教徒の血は「*mobah*(モバーフ)」と見なされる。即ち、バハーイー教徒の血を流しても罪に問われず、バハーイー教徒の家族には、賠償金を受け取る資格が無いことを意味する。

イラン政府は、公認されている宗教的マイノリティが学校を開設することを一般的に認めている。教育省(Ministry of Education)は、カリキュラムに関する一定の要件を課し、こうした学校を監督している。少数の例外を除き、これらの私立学校の管理者は、イスラム教徒でなければならない。公認の宗教的マイノリティに属する者は、こうした学校に行くことを義務付けられていない。宗教の教科書を含め、教科学習で使用されるすべての教科書は、教育省の認可を受けなければならない。公認の宗教的マイノリティに属する者は、ペルシア語以外の言語で宗教指導を行うことができるが、その教科書は、当局の認可を得なければならない。この要件は、時折、少数派コミュニティに多額の翻訳費用を負担させることとなっている。

イラン政府は、1979年のイスラム革命以来、バハーイー教徒の学生が高等教育を受ける権利を公式に否定している。文化革命最高評議会 (Supreme Council of the Cultural Revolution) は、1991年、バハーイー教徒を「大学から追放しなければならず」、恐らくはバハーイー教徒を国家が支持する宗教に教化するためであろうが、バハーイー教徒の児童が「強固で強制的なイスラム教シーア派の宗教イデオロギーを持つ学校に入学するべきである」と言明した秘密覚書に署名した。司法省は、バハーイー教徒が自らをバハーイー教徒であると明かさない場合に限り、入学を許可すると規定している。イラン政府は、バハーイー教徒の学生が大学入学試験に登録する上で、バハーイー教以外の信者であると名乗ることを強要している。こうした要件は、バハーイー教徒が公立大学に入学することを妨げている。バハーイー教の教義が、人の信仰を否定しないことであるためである。司法省は、バハーイー教の学生の宗教的帰属が明らかになった場合、バハーイー教の学生を除名又は追放することを大学に要求している。大学の入学志願者は、イスラム教神学、キリスト教神学、又はユダヤ教神学の試験に合格することを義務付けられているが、バハーイー教神学の試験は無い。

シーア派以外の宗教指導者たちは、公立学校において、スンニ派の宗教文献とスンニ派の教育が禁止されていると報告している。スンニ派は新たな学校やモスクを建設することが認められていない。

バハーイー教徒は、社会年金制度から排除されている。さらに、バハーイー教徒は、傷害又は犯罪被害に対する補償を与えられず、財産相続権を認められないことが一般的である。イラン政府は、バハーイー教徒の婚姻及び離婚を認知しないが、民間による婚姻の証明が婚姻証明書の役割を果たすことを認めている。

イラン政府は、公認の宗教的マイノリティ集団が、コミュニティーセンターを開設したり、自ら資金を調達する文化団体、社会団体、競技団体、又は慈善団体を設立したりすることを認めている。しかしながら、イラン政府は、バハーイー教徒コミュニティーが行政機関を公式に設置・維持することを禁じ、この政策の一環として、そのような機関の閉鎖を積極的に推進している。

ユダヤ系市民は自由に海外に渡航することを認められており、イラン政府は、一般的に、ユダヤ系市民がイスラエルに旅行することに法的制限を設けていない。ユダヤ系以外の市民は、イスラエルに旅行することができない。

イラン政府は、高位のシーア派宗教指導者の声明や見解を注意深く監視している。最高指導者は、司法の枠外で運営される特別聖職者法廷 (Special Clerical Court) を監督する。特別聖職者法廷とは、聖職者が犯した法律違反及び犯罪を調査するために設置された法廷である。憲法は、特別聖職者法廷について、何ら規定していない。

イラン政府は、どの宗教を信仰する市民にも、宗教に基づいて正当化された厳格な規則に従うことを強制し、男性に与えられている多くの権利を女性から実質的に奪うイスラム教の法解釈を維持している。イラン政府は、宗教的帰属とは無関係に、イラン全土において男女の隔離を強制している。どの宗教集団に属する女性も、公共の場では「イスラム的服装」を身に付けることを求められている。これには、髪を覆うこと、及びゆったりした服装で全身を覆うことが含まれている。こうした保守的な服装に関する規則の強制は、時には緩和されることもあるが、イラン政府は、定期的に「イスラム的でない服装」を身に付けている者を処罰している。服装に関する規制を緩和する方向で、イラン警察は、2013年11月、この規則の取締まりを Gashte Ershad (「指導パトロール(Guidance Patrol)」) から内務省(Ministry of the Interior)内の新しい「社会委員会」に移行することを発表した。

イラン政府の結婚と離婚に関する12ヶ条契約モデルは、強制的ではないものの、全ての女性に与えられる権利を、慣習とイスラム法の伝統的な解釈によって制限している。

政府の慣行

イラン政府は信教の自由を厳しく制限している。イラン政府の言辞及び行動は、特にバハーイー教徒にとって、また、スーフィー派を含むイスラム教スンニ派、キリスト教徒(特に福音派キリスト教徒)、ユダヤ教徒、及び、イラン政府の公認するものとは異なる宗教的見地を持つシーア派など、シーア派以外のほぼすべての宗派にとって、不穏な風潮を作っている。イラン政府の支配下にある放送局と新聞社は、宗教的マイノリティの信者、特にバハーイー教信者に対する中傷を続けている。シーア派以外のすべての宗教的マイノリティが、程度に差はあれ、雇用、教育、及び住宅取得などの面で公式な差別の対象となっている。

イラン政府は、反体制派、政治的革新派、及び平和的抗議活動家に対し、*moharebeh*(モハレベ(神への敵意))や「反イスラムプロパガンダ」の罪を科し、有罪判決や処刑を続けている。信頼できる NGO の報告によると、イラン政府は *moharebeh*(モハレベ(神への敵意))の容疑で、少なくとも 27 人を処刑した。人権擁護団体の報告によると、2013 年 10 月 26 日、スィスターン・バルーチェスターン(Sistan-Baluchistan)州にあるザーヘダーン(Zaehedann)刑務所で、イラン当局は、複数の囚人を処刑したが、そのうち 8 名は *moharebeh* の容疑であった。人権擁護団体は、同 10 月 26 日、当局が、Uremia 刑務所とサルマス(Salmas)刑務所において、Habibollah Golparipour と Reza Esmaili の両名を *moharebeh* などの容疑でそれぞれ処刑したとも報告している。

キリスト教の牧師ユセフ・ナダルカニ(Youcef Nadarkhani)は、過去 3 年間に度々逮捕されていたが、2010 年にイスラム教徒にキリスト教を伝導した罪を問われた後、2013 年 1 月 7 日に釈放された。同牧師の弁護士であり、著名な人権問題の弁護士でもあるモハメッド・アリ・ダドハー(Mohammed Ali Dadkhah)は、2011 年に「反政権プロパガンダ」の罪で投獄された後、2013 年末時点で未だ服役中である。

キリスト教牧師で米国とイランの二重国籍者サイード・アベディニ(Saeed Abedini)は、2012 年 9 月から拘束されていたが、2013 年 1 月、信仰に関連する容疑で懲役 8 年の刑を言い渡された。エヴィン(Evin)刑務所の所員が、収容中、アベディニ(Abedini)に対して身体的/精神的虐待を行い、治療を受けさせず、弁護士との面会も認めていないと報告されている。2013 年 11 月 3 日、イラン当局は、アベディニ(Abedini)をラジャエイ=シャー(Rajai Shahr)刑務所に移送した。同刑務所は、過密状態で、十分な医療も受けられないと評されている。当局は、アベディニ(Abedini)を凶悪犯用の監房に入れたとされる。アベディニ(Abedini)は、2013 年末時点で、ラジャエイ=シャー刑務所にいると報告されている。

1979 年のイスラム革命以来、イラン政府は 200 人以上のバハーイー教徒を処刑してきたが、

2013年には、バハーイー教徒の処刑は報告されていない。イラン政府は、多くのバハーイー教徒の出国を妨げ、彼らに嫌がらせを行い、迫害し、一般的に彼らの財産権を無視している。

バハーイー教徒の組織によると、イラン政府は、2013年に少なくとも42人のバハーイー教徒を逮捕し、その一部を釈放した。これらの組織によると、2013年末時点で、少なくとも116人以上のバハーイー教徒が収容されており、バハーイー教徒の事件524件が今なお司法制度下で係争中である。多くの場合、イラン政府は、それぞれ反国家活動と虚言の拡散に関するイスラム刑法第500条及び第698条の違反容疑で、バハーイー教徒を起訴している。また、イラン政府は、バハーイー教徒に対し、「反政権プロパガンダ」や国家安全保障上の犯罪を科すことが多い。これらの容疑は、釈放されても撤回されない場合が多く、容疑が未決の者は常に逮捕されることを恐れていると伝えられる。政府役人は、バハーイー教徒に対し、宗教的帰属を撤回し、イスラム教への帰依を宣言することと引き換えに、刑務所からの釈放と虐待からの解放を約束すると報告されている。

7人のバハーイー教指導者ファリバ・カマラバディ(Fariba Kamalabadi)、ジャマロドディン・ハンジャンニ(Jamaloddin Khanjani)、アフイフ・ナエイミ(Afif Naeimi)、ベールウズ・タヴァッコリ(Behrouz Tavakkoli)、サイード・レザイエ(Saeid Rezaie)、ヴァヒド・ティズファーム(Vahid Tizfahm)、マーヴァシュ・サベト(Mahvash Sabet)は、2011年に当局によって20年に延長された刑期の途中であり、2013年末時点で服役中である。この7人は、2011年に「イスラエルのためのスパイ、宗教的神聖の侮辱、及び反イスラム共和国プロパガンダ」の容疑で起訴された。イラン政府は、7人のいずれにも弁護士アブドルファッター・ソルタニ(Abdolfattah Soltani)との接触を認めなかった。ソルタニ(Soltani)は、「反体制プロパガンダの流布」、「違法な反体制グループの設立」、及び「国家安全保障を損なうことを目的とした集会と共謀」などの容疑で、2011年9月に逮捕された。2012年3月、当局はソルタニ(Soltani)に懲役18年を言い渡し、さらに20年間弁護士活動を行うことを禁止した。2013年11月2日、ソルタニ(Soltani)はエヴィン刑務所における医療の欠如に対して抗議するため、ハンガー・ストライキを開始した。ソルタニ(Soltani)は2013年末時点、エヴィン刑務所で服役中である。

ソルタニ(Soltani)の妻マッソウメー・デーガーン(Massoumeh Dehghan)は、反国家プロパガンダを流布した容疑で起訴され、2012年11月に懲役1年を言い渡されていたが、その後、懲役刑を5年延長され、さらに5年間の出国禁止を命じられた。2013年10月7日、人権擁護団体は、テヘラン控訴裁判所(Tehran Appeals Court)第54支部が、同夫人に対する判決を完全に支持する判決を下したことを報告している。

バハーイー教の団体によると、トネカボン(Tonekabon)当局は、2013年9月23日頃、Zayullah Qadri、Soroush Gorshasebi、及び Faramarz Lotf の3名のバハーイー教徒を逮捕したが、これら3名の移送先は不明である。逮捕者の家族は、面会を試みたところを急襲され、そのうちの2人は催涙ガスを顔に吹きかけられたとされる。Gorshasebi は、17日間拘束された後、保釈金を支払って釈放された。

イラン政府は、バハーイー教徒の住宅や事業所を強制捜査し、宗教関連の物品、及び大量の個人資産や商品を押収した。Baha'i World News Service によると、諜報治安省の捜査官は、2013年10月13日、アバデ(Abadeh)で14件のバハーイー教徒の住宅を強制捜査し、コンピュータ、書籍、及びその他の所有物を押収した。その後、当局は、居住者を尋問のために召喚し、アバデ(Abadeh)を出て行かないと市民から攻撃を受けることになることを警告したとされる。

イラン政府は、墓地、神聖な場所、歴史的な場所、及び管理センターなど、1979年の革命後に押収したバハーイー教徒の多くの財産を未だに差し押さえている。また、一般的にバハーイー教徒が宗教的伝統に従って死者を埋葬することを禁じ、墓地の多くが破壊された。2013年8月19日、イランのキリスト教系報道局である Mohabat News は、サナンダジュ(Sanandaj)にある革命法廷(Revolutionary Court)が、バハーイー教徒の墓地の破壊を命じたと報じた。この墓地には40人を超えるバハーイー教徒が埋葬されているとされる。報告の時点で、イラン当局は、墓地のあった土地を既に売却したとされている。

当局が、バハーイー教徒の事業を規制する、事業の閉鎖を強制する、民間企業の経営者にバハーイー教徒の従業員を解雇するよう要求する、事業・商業免許の新規又は更新申請を却下するなどの行為を行っていることが報告されている。人権活動家によると、2013年10月5日、イラン当局は、Soroush Gorshasebi、Sina Gorshasebi、Omid Qaderi ら3人のバハーイー教徒が所有する事業を強制的に閉鎖したという。ある報告によると、閉鎖の理由は公表されなかったが、バハーイー教徒はイスラム教徒に食品を売ることを禁じられており、政府役人はこの規制を食品以外の品物にも拡張して適用することが多いとされる。

イラン政府は、公式には、バハーイー教徒が自らバハーイー教徒であることを明かさない限り、大学に通う自由を有するとしているが、公立や私立の大学では、バハーイー教徒に対する入学拒否や除名処分が続いている。これは、バハーイー教徒が高等教育を受けることを阻害する暗黙の政策が、今なお継続していることを示している。

イラン政府は、バハーイー教高等教育研究所(Bahai Institute for Higher Education)のメンバーの逮捕・拘束を続けている。2013年10月8日、法廷は Nazim Baqeri を裁判にかけ、

大学との関係を通じて国家の安全を危険に晒した罪で、懲役 4 年の刑を言い渡した。2011 年に「バハーイー教徒コミュニティの一員である」という罪で逮捕されたバハーイー教高等教育研究所のフアド・モカッダム(Fuad Moqaddam)とエマヌラー・モスタキム(Emanullah Mostaqim)の両名は、2012 年に懲役 5 年の刑を言い渡された。モッカダムは、5 年の刑を務めるため、2013 年 5 月 20 日にエヴィン刑務所に収容されたと報じられている。ある人権 NGO は、最近開心手術を受け、糖尿病を患うモスタキムが、5 年の刑を務めるため、同日にエヴィン刑務所に出頭し、同月 30 日にラジャエイ=シャー刑務所に移送されたと報じている。

イラン政府が、バハーイー教徒の個人財産の押収や、教育や雇用からの排除を続けているため、バハーイー教徒コミュニティの経済基盤を蝕まれ、その存続は危うくなっている。バハーイー教徒コミュニティのメンバーは、バハーイー教徒の児童が、公立学校で、教師や管理者からイスラム教に改宗するよう説得を受けていると報告している。バハーイー教徒の学生の収容は 2013 年も続いた。レヴァ・ハンジャニ (Leva Khanjani) は、2009 年 12 月の選挙後の学生抗議活動への参加に関連した容疑で、2012 年 8 月に懲役 2 年の刑に処された。2013 年 7 月には 4 日間の一時仮出所を認められたが、2013 年末時点で、エヴィン刑務所に収容されているとされる。

2013 年も、スーフィー教徒に対する嫌がらせや逮捕が続いた。2013 年 7 月 10 日、テヘラン(Tehran)の革命法廷第 15 支部は、スーフィー派の聖職者 7 名に対し、「国家安全保障を脅かす宗派への帰属」、「世論の攪乱」、及び「異常な集団の設立及びその集団への所属」の罪で、7 年半から 10 年半の懲役刑に処することを申し渡した。国際 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ(Human Rights Watch)によると、Hamid-Reza Moradi、Reza Entesari、Amir Eslami、Afshin Karampour、Farshid Yadollahi、Omid Behrouzi、及び Mostafa Daneshjoo ら 7 名の被告は、弁護士との接見の禁止、事件簿の閲覧の禁止、及び、拘束中における諜報治安省の捜査員による虐待など、適正手続(デュー・プロセス)の実行の際に違反があったと報告している。この 7 名は、全員、2013 年末時点で、エヴィン刑務所で服役中であると伝えられる。数名のスーフィー教徒の囚人が栄養失調と医療の欠如に苦しんでいると伝えられる。国際 NGO ヒューマン・ライツ・ウォッチ(Human Rights Watch)によると、2013 年 7 月 18 日、シーラーズ(Shiraz)の革命法廷第 2 支部は、4 名のスーフィー派に対し、国家安全保障を損なう意図を持った「反政府」集団への所属の罪で、1 年ないし 3 年の懲役刑に処することを申し渡した。ある親スーフィー派の放送局は、Moradi を含むスーフィー派の囚人数名が、栄養失調と医療の欠如に苦しんでいると報じている。

人権擁護団体は、イラン当局が、スンニ派に対する適正手続の実行の際に違反を犯している事例を数件報告した。2013 年 3 月、人権活動家や人権擁護団体は、スンニ派指導者モラ

ヴィ・ファティ・モハンマド・ナグシュバンディ (Molavi Fathi Mohammad Naghshbandi) 他 11 名のスンニ派の裁判における適正手続の侵害に対する懸念を表明する共同声明を発行した。これらの被告は、2012 年 1 月に発生した政府支持派のスンニ派聖職者モスタファ・ジャン・ゼヒ (Mostafa Jang Zehi) の暗殺に関連して死刑判決を受けている。

2013 年 6 月 5 日、International Campaign for Human Rights in Iran は、キャラジ (Karaj) にあるラジャエイ＝シャー刑務所のスンニ派の囚人 20 名が、重大な犯罪とされる *moharebeh* (モハレベ(神への敵意)) の罪で有罪判決を受け、多くは拷問に屈して容疑を認めたと報じた。また同情報源は、刑務所内のスンニ派が、信仰のために虐待を受けたとも伝えている。

イラン政府は、キリスト教徒に対する信教の自由の否定を精力的に推進した。キリスト教徒、特に福音派は、多大な嫌がらせと綿密な監視を受け続けている。人権活動家によると、イラン当局は、福音派を含むキリスト教徒を、その人口に不均衡な高い割合で逮捕している。こうした事例のその後の状況は、2013 年末時点で明らかになっていない。イラン当局は、一部のキリスト教徒をほぼ逮捕直後に釈放しているが、残りの逮捕者を拘束している場所を明らかにせず、弁護士との接見も許可していない。イランの人権に関する国連特別報告官は、2013 年 7 月時点でイラン当局が少なくとも 20 人のキリスト教徒を拘束しているという報告書を提出した。人権擁護団体は、刑務所当局が、キリスト教徒の囚人に対し、適切な医療を受けさせていないと伝えている。ある事例では、キリスト教牧師ベナム・イラニ (Behnam Irani) が、血液感染に苦しみ、治療も受けていない。人権擁護団体によると、イラニは看守から殴打も受けた。

ある人権擁護団体によると、ラシュト (Rasht) の裁判所は、2013 年 10 月 20 日、4 名のキリスト教徒に対し、聖体拝領の最中にワインを飲み、衛星アンテナを保持していたという容疑で、各自を鞭打ち 80 回の刑に処することを申し渡した。2012 年 12 月、イラン当局は、Behzad Taalipasand、Mehdi Reza Omidi (Youhan)、Mehdi Dadkhah (Danial)、及び Amir Hatemi (Youhanna) ら 4 名を、キリスト教の儀式の最中に家庭教会 (house church) で逮捕した。イラン当局は、Taalipasand と Dadkhah に対する刑を 2013 年 10 月 30 日に執行した。

キリスト教への改宗者 Farshid Fathi は、イランにある外国企業の「理事長 (chief director)」に就任し、同企業のために資金を集めた」罪で、2010 年に逮捕され、2012 年に、テヘラン (Tehran) の革命法廷から懲役 6 年の刑を言い渡された。イランのキリスト教系報道局である Mohabat News によると、Fathi は、ある書簡の中で、エヴィン刑務所の所員から重度の拷問を受けたと伝えている。

Mohabat Newsによると、2013年5月、2011年12月に逮捕されたファルハド・サボクロウ(Farhad Sabokrouh) 牧師、シャーナズ・ジャザン(Shahnaz Jazan)、ダヴード・アリ＝ジャニ(Davood Ali-Jani)、及びナセル・ザメン＝デズフリ(Naser Zamen-Dezfuli)ら4人のキリスト教徒は、「伝道活動及びキリスト教の普及を通じた反体制政治プロパガンダ」の罪で確定していた懲役1年の刑に服した。2013年末時点で、アリ＝ジャニ(Ali-Jani)はアフヴァーズ(Ahwaz)にあるカールーン刑務所(Karoon Prison)で、残りの3名は、やはりアフヴァーズ(Ahwaz)にある Sepidar 刑務所(Sepidar Prison)で服役中である。2012年12月にテヘラン(Tehran)で行われた強制捜査で逮捕された50人のキリスト教徒のうちの一人である Mohammad-Hadi (Mostafa) Bordbar は、2013年7月31日、「国家安全保障を脅かす組織」への所属、及びイランの国家安全保障を脅かす罪を犯す意図をもって集会を開いたという容疑で、テヘラン(Tehran)革命法廷第26支部により、懲役10年の刑を言い渡されたが、2013年11月3日、上訴裁判所が、同被告に対する容疑をすべて取り下げた後、釈放された。同じ2012年12月のテヘラン(Tehran)強制捜査で逮捕されたアルメニア系キリスト教牧師 Vruir Avenessian に対する裁判は、同裁判所で2013年9月7日に開廷され、同被告は、「国家安全保障を脅かす行動」と「ファルシ語を話す市民に対する改宗活動」の罪を科せられたと伝えられる。

イスラム教からキリスト教への改宗者は、嫌がらせ、逮捕、及び刑の宣告を受けている。多くの逮捕が、宗教的集会に対する警察の強制捜査時に行われ、その際、政府は宗教的財産も押収している。ある人権擁護団体によると、2013年5月29日、私服警官が、キリスト教への改宗者のための家庭礼拝(house service)の最中に、Mohammad Reza Farid, Saeed Safi、及び Hamid Reza Ghadiri を逮捕した。2013年7月8日時点で、逮捕者の家族は、勾留の状況に関する情報を得ることができず、当局から容疑も告げられていない。

スンニ派に対する逮捕や嫌がらせが報告されている。人権活動家によると、国家安全保障を脅かした罪でラジャエイ＝シャー刑務所に3年間服役した後、最高裁判所に無罪を認められ、釈放されていたスンニ派の活動家 Hossein Javadi が、諜報局の捜査員により再逮捕された。2013年末時点で、Javadi は、ラジャエイ＝シャー刑務所にて、当初の5年の懲役刑の残りの刑期を務めていると伝えられる。

政府の政策又は最高指導者の見解を全面的には支持しないシーア派の宗教指導者に対する脅迫と逮捕も行われている。人権活動家によると、反体制派シーア派聖職者ホセイニ・カゼメイニ・ボロウジェルディ(Hossein Kazemeini Boroujerdi)師にとって、刑務所の状況は劣悪なままである。同師は、特定されていない容疑に基づいて、エヴィン刑務所にて懲役11年の刑に服しており、所員による拷問を受け続け、いくつかの健康問題を患っているが、治療を受けることを認められていない。

2013年5月7日、インターネットの掲示板上でイスラム教を批判した容疑で起訴され、*moharebeh*(モハレベ(神への敵意))の罪で懲役9年の刑を務める歯科医のカムラン・アヤジ(Kamran Ayazi)医師は、エヴィン刑務所における栄養不足の問題に対する不満を示した後、独房に移されたことを抗議して、ハンガー・ストライキに入ったと人権活動家が伝えている。2012年8月、報道機関は、アヤジ(Ayazi)医師が鞭で打たれ、大量に出血したと報じた。

人権活動家によると、2013年8月と9月、服装規定の執行事例が増加しているとの報告があった。逮捕者は、罰金又はその他の処罰の対象となる。服装規定を緩和する方向で、イラン警察は、2013年11月、この規則の取締まりを *Gashte Ershad*(「指導パトロール(Guidance Patrol)」)から内務省(Ministry of the Interior)内の新しい「社会委員会」に移行することを発表した。

イラン政府は、福音派キリスト教の活動を入念に監視する、イスラム教徒が教会の敷地に立ち入ることを阻止する、教会を閉鎖する、キリスト教への改宗者を逮捕するなどの行為により、改宗活動の禁止を推し進めた。イラン当局は、イスラム教徒に対する伝道活動を行わない、又はイスラム教徒に教会の礼拝への出席を認めないとの誓約書に署名を求め、福音派教会の指導者に圧力をかけた。福音派礼拝の集会は、日曜日だけに制限されている。イラン当局が、イスラム教徒にキリスト教教会への訪問を認める行為を改宗活動と見なしていることを、報告は示唆している。いくつかのキリスト教擁護団体は、イラン政府が、アルメニア系、アッシリア系、及び福音派の教会に対し、ファルシ語での礼拝を全面的に廃止するように圧力をかけたと伝えている。福音派信心会のメンバーは、会員カードを携帯し、そのコピーをイラン当局に提出することが義務付けられている。信心会センターの外には治安要員が配置され、礼拝者の身元確認を行っている。

キリスト教擁護団体 *Christian Solidarity Worldwide* によると、革命防衛隊(IRGC: Islamic Revolutionary Guard Corps)の隊員が、2013年5月21日、テヘラン(Tehran)で、*Central Assemblies of God Church* での祈祷集会において、キリスト教牧師 *Robert Asserian* を逮捕した。同牧師は、2013年7月2日に保釈金を支払って釈放されたと伝えられる。人権活動家によると、革命防衛隊(IRGC)は、2012年、諜報治安省及び文化イスラム指導省に代わり、協会に対する監視を強めたとされる。キリスト教のすべての宗派が、教会外部に監視カメラが設置されていることを報告している。これは、キリスト教徒以外の者が礼拝に参加していないことを確認するためと言われている。

警察隊が一部キリスト教徒の住宅を強制捜査し、財産を押収した。キリスト教系の報道局

によると、2013年1月9日、テヘラン(Tehran)の警察当局が、Shahrzad Y.と Sam S.として知られるキリスト教徒2名の自宅を強制捜査し、「家庭教会の設立と推進、及び犯罪を意図した集会の開催」の容疑で、両名を逮捕した。警察当局は、強制捜査の際、ラップトップ・コンピュータ、カメラ、及び宗教関連の書籍などの私物を押収したとされる。

公式報告とメディアは、引き続き、キリスト教家庭教会を「違法ネットワーク」及び「シオン主義者のプロパガンダ機関」と定義付けている。家庭教会の逮捕されたメンバーは、敵国の支援を受けていると非難されることが多い。2013年10月12日、Mojtaba Seyyed Alaedin Hossein、Mohammad-Reza Partoei、Vahid Hakkani、及び Homayoun Shokouhi の4名が、キリスト教の布教活動、国家安全保障の攪乱、反政権プロパガンダの流布、及び外国組織との接触の容疑に関する控訴を棄却されたと人権活動家が伝えている。2012年2月に家庭教会の強制捜査で逮捕されたこの4名は、全員、懲役3年8ヶ月の刑を言い渡された。

アッシリア系キリスト教徒は、独自の教科書を執筆することを認められているとされる。教科書は、政府の認可を受けた後、政府の費用で印刷され、アッシリア系市民に配布される。イラン政府は、ヘブライ語による教育を許可していると伝えられているが、ヘブライ語の教科書、特に宗教とは無関係の教科書などの配布を制限しており、ヘブライ語の指導は困難である。イラン政府は、ユダヤ人学校に対し、他の学校のスケジュールに合わせるために土曜日でも開校するように義務付けているが、これは、ユダヤ教の戒律に違反する。

いくつかの例外はあるが、ユダヤ教の礼拝に対する政府の制限又は介入はほとんど無い。しかしながら、政府の役人は、公式声明、報道、出版物、及び書籍の中で、反ユダヤ主義のプロパガンダが流布されることを今でも容認している。

政府職員が反ユダヤ主義の発言を行ったという報告が寄せられている。2013年11月10日、強硬派で半国営の革命防衛隊(IRGC)に近い報道局 Fars News は、革命防衛隊(IRGC)の海軍少佐で准将の Alireza Tangsiri が、「イスラエル人はユダヤ教徒であり、米国人はキリスト教徒である。コーラン(イスラム教典)は、ユダヤ教徒とキリスト教徒は友人ではないと強調している。」と発言したと報じた。マフムード・アフマディーネジャード(Mahmoud Ahmadijenad) 前イラン大統領は、在職中、絶えずホロコーストの存在と範囲を問題視し、公然とイスラエルの破壊を呼びかけた。(ハサン・ロウハーニー(Hassan Rouhani)が2013年6月に大統領に選出され、同年8月4日に宣誓を終え、アフマディーネジャード(Ahmadijenad)の後任となった。)

イラン当局は、サービア・マンダヤ教徒コミュニティのメンバーに対しても、高等教育の

場や公務員の職から排除するなど、他の宗教的マイノリティ集団に対する嫌がらせ同様の方法で、嫌がらせと抑圧を加えた。

スンニ派の聖職者や集会メンバーの逮捕、また、これらの人々に対する嫌がらせが報告された。多くのスンニ派は、差別を受けていると主張している。しかし、差別の原因が宗教的なものであるか民族的なものであるかを判別することは困難である。ほとんどのスンニ派は少数民族の一員でもあるからである。スンニ派は、テヘラン(Tehran)には 100 万人以上のスンニ派が居住しているにもかかわらず、スンニ派のモスクが無いことを顕著な例として挙げている。

スンニ派指導者は、スンニ派が住民のほとんどを占める地域でさえ、公立学校においてスンニ派の宗教的文献と教育が禁止されていると報告している。さらに、スンニ派は、クルディスタン州(Kurdistan)やフーゼスタン(Khuzestan)州などスンニ派が大多数を占める州において、政府任命職に就いているスンニ派が不当に少ないこと、また、スンニ派が政府の上位の職を得ることができないことを指摘している。クルディスタン州(Kurdistan)、フーゼスタン(Khuzestan)州、及びスィスターン・バルーチェスターン(Sistan-Baluchistan)州などスンニ派が多数を占める州の住民は、司法制度や警察による抑圧、差別、政府が提供する基本的サービスの欠如、及び設備投資プロジェクトへの資金提供の不足を報告している。

治安局の捜査員は、スンニ派の所有する祈祷所に対する強制捜査を続けている。人権擁護団体によると、治安当局は、2013 年 10 月 16 日、テヘラン(Tehran)にある Sadeghiyeh モスクを取り囲み、イード・アル・アドハ(Eid al-Adha(犠牲祭))を祝うために、スンニ派がモスクに入って祈祷することを妨害した。

イラン政府は、スーフィー教徒とその宗教活動を抑圧している。諜報機関と治安機関は、著名なスーフィー教指導者に対する嫌がらせと脅迫を続けている。スーフィー教徒集団とフセーニヤ(husseiniya(礼拝場))に対する政府の規制は、近年、ますます顕著になっている。人権活動家によると、当局は、2013 年、スーフィー教徒の住宅を少なくとも 1 軒、破壊した。また、政府役人がスーフィー教徒の家族をその土地から追放し、財産の名義を自分の仲間に移転させたとも伝えられる。

イラン政府は、物議を醸す政治的考えを表明したり、ジャーナリズムなどの非宗教活動に参加したりしたとして聖職者を起訴するため、聖職者法廷を利用していると伝えられている。報道によると、2013 年 9 月 2 日、タブリーズ(Tabriz)にある特別聖職者法廷が、スンニ派聖職者 Abdolsalam Golnavaz に対し、「扇動の手段としてクルディスタン州

(Kurdistan)当局を批判した」罪、及び「宗派間の対立を生むことを目的としてスンニ派の見解を宣伝した」罪で、懲役 6 年の刑を言い渡し、聖職者の衣服を着用することを永久に禁止した。2013 年 9 月 11 日、複数の NGO は、反体制派の聖職者でブロガーでもあり、2010 年にスパイ容疑で有罪判決を受けたアラシュ・ホナルヴァル・ショジャイー(Arash Honarvar Shojaee)が、さらに「[元最高指導者]ホメイニー師(Imam Khomeini)を侮辱した」とした罪を科せられたと報じている。ショジャイー(Shojaee)は、健康状態が悪く、医師から服役に耐えられないと診断されたにも拘わらず、イラン当局が釈放を拒否したと伝えている。

イランの人権に関する国連特別報告者アーメド・シャヒード(Ahmed Shaheed)博士は、2013 年 10 月に 5 つ目の報告書を提出した。その中で、特別報告者は、「バハーイー教徒、キリスト教徒、イスラム教スンニ派、ヤルサン(Yarsan)教徒、及びその他の宗教集団を含め、公認されている宗教の信者も、非公認の宗教の信者も、同様に雇用と教育の面などにおいて、様々な形態の法的差別を受けており、恣意的な逮捕、拷問、虐待に苦しめられている。」と述べた。

政府による行動の欠如

イラン政府は、宗教的マイノリティに対して未だに存続する差別、規制、及び度々の攻撃に関し、適切に対処していない。警察当局も、宗教的マイノリティの信者や、その信仰の場所や墓地などの財産に対して起こった犯罪を、調査することは無かった。しかし、2013 年 10 月 31 日に発行されたインタビューで、ロウハーニー(Rouhani)大統領の「少数民族と宗教的マイノリティに関する特別顧問(Senior Adviser on Ethnic and Religious Minorities)」である Ali Younesi は、「過激派や圧力団体が」宗教的マイノリティを攻撃することを防止するための対策を講じるように、政府に求めた。

2013 年 8 月 24 日にバンドレ・アッパーズ(Bandar Abbas)で殺害された Ataollah Rezvani というバハーイー教徒の家族は、判事が、殺害の動機が宗教的理由であることを無視し、死亡の原因を自殺、又は宗教とは無関係の動機による殺人と判断したと報告している。2013 年末時点で、捜査の進捗状況は明らかになっていない。Rezvani は、後頭部に銃撃を受けたと伝えられる。Rezvani の親類の一人は、事件の状況から、強盗と復讐を動機とした殺人を否定し、Rezvani がバハーイー教徒であるがために狙われたと主張した。地元の導師(imam)が、説教の中で、Rezvani が死亡した日の数日前を含め、度々、バハーイー教徒に対する批判を口にしてきた。2013 年末時点で、事件の捜査は決着していない。

第 III 節 信教の自由に対する社会的尊重の現状

宗教的な帰属、信仰、又は活動を理由に、社会から虐待や差別を受けたという報告がされている。憲法は、キリスト教徒、ユダヤ教徒、及びゾロアスター教徒に対し、「保護」された宗教的マイノリティという地位を与えているが、実際には、非イスラム教徒は深刻な社会的差別を受けており、イラン政府の行動は、宗教的マイノリティの信者にとって不穏な雰囲気を生み出している社会の要素に引き続き拍車をかけている。

保守的メディアは、2005年8月にアフマディネジャド(Ahmadinejad)前大統領の就任後に始まった非イスラム宗教的マイノリティの信者を攻撃する運動を続けている。政治的指導者及び宗教的指導者は、非イスラム教徒を攻撃する扇動的な一連の声明を出し続けている。こうした運動は、2013年を通じて非イスラム教徒コミュニティにとって非常に困難な状況を生み出した。

何者かがバハーイー教徒の墓地を冒涇したとバハーイー教徒の団体が伝えている。イラン政府は、犯人の特定と処罰に尽力しなかった。イラン全土で、社会の様々なレベルでバハーイー教徒が問題に直面していることが報じられている。バハーイー教徒は個人的な嫌がらせを受け続けている。バハーイー教徒の児童が学校で嫌がらせやイスラム教の教化を受けているという事例の報告がある。バハーイー教以外の宗教の信者は、民間事業の職にバハーイー教徒を雇用することを拒否する、さらには民間事業の職からバハーイー教徒を解雇するように、圧力をかけられることが多い。

シーア派の聖職者と礼拝指導者が、スーフィー教、並びにイランにおけるスーフィー教徒の活動を、説教と公的声明の両方で、公然と非難する事例が多数報告されている。

多くのユダヤ人は、報復を恐れ、イスラエルとの接触やイスラエルへの支援を絶とうとしているとされる。2013年1月初旬、報道機関は、2012年12月に起こったユダヤ系イラン人 Daniel Mahgerefteh の殺害事件の後、ユダヤ人社会が恐怖に包まれていると報じた。この男性は、革命防衛隊(IRGC)の隊員の娘と恋愛関係にあったと報じられている。警察当局は、Mahgerefteh が強盗事件で殺害されたという見解を維持したが、公式調書には複数の矛盾点が見られ、娘が殺害に共謀した疑いが持たれている。

第IV節 米国政府の政策

1999年以降、米国はイランを、信教の自由に関して特に重大な違反を犯した、又はそれを容認したとして、「国際的な宗教の自由法(International Religious Freedom Act)」に関する「特に懸念される国(CPC: Country of Particular Concern)」と指定している。米国务長

官は、2011年8月にイランを「特に懸念される国」として再指定し、「2010年イラン包括的制裁法(Comprehensive Iran Sanctions Accountability and Divestment Act of 2010)」第402条(c)(5)により、同法第103条(b)に従って、特定の物品のイランからの輸入、及びイランへの輸出に関する既存の規制を再度指示した。

米国はイランとの外交関係を持っていないため、イラン政府に対し、イランにおける信教の自由の侵害及び制約について、直接懸念を提起する機会をあまり持たなかった。しかし、大統領と国務長官を含む米国政府高官は、イラン政府高官に対し、キリスト教牧師で米国とイランの二重国籍者サイド・アベディニ(Saeed Abedini)が宗教上の信仰に関連した罪で拘留されている件を、度々直接提起し、アベディニ(Abedini)の釈放を求めている。米 국무省も、アベディニ(Abedini)、及び宗教を根拠に投獄されているその他の囚人の釈放を公式に求めている。

さらに、米国政府はその他の経路を通じ、イラン政府に対し、信教の自由を尊重し、信教の自由の侵害を廃絶することを求めてきた。これには、公式声明や公式報告書、関連する国連及びNGOの活動に対する支援、外交活動、及び制裁が含まれている。「国際的な信教の自由」の特使を含む米国政府高官は、多くの場で、バハーイー教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒、及びイランのその他の市民集団の置かれている状況について、言及している。

米 국무省と米財務省は、2013年5月、大統領命令13628に従って、イランの政府機関である犯罪内容確定委員会(CDICC: Committee to Determine Instances of Criminal Content)に対し、2009年6月12日以降、表現の自由と集会の自由の権利のイラン国民による行使を禁止、制限、若しくは処罰するような、又は、印刷や放送のメディアから情報を取得することを制限するような検閲、その他のイランに関連する行為を行っているとして、制裁を科した。犯罪内容確定委員会(CDICC)は、聖職者に対する侮辱など、漠然とした定義の法律に基づいて、インターネットの内容を検閲することを使命の一部としている。これらの法律を適用し、宗教的マイノリティのウェブサイトをブロックすることが可能である。米 국무省は、2013年5月、今なお続いている政治的弾圧に関連する人権侵害に関わった60人近くのイラン政府官僚やその他の人物に対し、入国制限を科した。

米国は、2013年3月、国連人権理事会(UN Human Rights Council)で、イランの人権に関する国連特別報告官の任期を更新することに賛成した。また、2013年11月と12月に、それぞれ国連第3委員会と国連総会で、今なお継続している宗教的マイノリティの迫害を含め、イランの人権問題に対する懸念を表明する決議に賛成票を投じた。